



公益財団法人日産財団 第3回理科教育賞の選定〈講評〉

選考委員長 西本清一

日産財団は「理科教育助成」プログラムを設け、幼・小・中学校から提案された理科教育の創意ある実践課題を選定することにより、理科教育の質の向上をめざした取組を支援している。選考委員会は各助成校における2年間の取組実績を事後評価し、Good Practice（すぐれた取組実績）を通じて他校へも波及可能なすぐれた成果をあげた実践校に「日産財団理科教育賞」を授与している。

選考委員会では、2012年度「理科教育助成」対象校に選ばれ、2013～2014年度の2年間の取組を終えた神奈川県13校、福岡県7校、栃木県3校、合計23校から提出された成果報告書による書面選考を経て、第3回理科教育賞候補3校を選定した。これら3校による成果発表会が7月24日、日産グローバル本社NISSANホールで開催され、「学びの質の向上度（のびしろ）」が大きい成果を挙げた1校を『理科教育賞 大賞』に認定した。今回から、選考委員会を選んだ理科教育賞候補3校を除く20助成校の成果を発表するポスターセッションを実施し、助成校の先生ほか贈呈式参加者の投票により、最多得票を得た1校を理科教育賞（ポスターセッション）に選定した。これらの選考の結果、下記の各賞受賞校を決定した。

【第3回理科教育賞 大賞(楯と副賞100万円)1校】

下野市立祇園小学校: 低学年での生活科と図画工作科を通じて、ものづくりの基本スキルを養ったのち、高学年で手技の必要な理科実験に取り組むという、学年進行型の理科教育プログラムを構築し、学校長を筆頭に全学を挙げて取り組んだ。子どもたちのものづくり能力を目標レベルまで導いた「のびしろ効果」は顕著であり、他校にも波及可能な理科教育の実践につながった。

【第3回理科教育賞(楯と副賞50万円)2校】

横浜市立三ツ沢小学校: 子どもたちにとって身近な生活環境に存在するものや現象を理科教育に活用可能な教材に仕上げ、単元の中での体験活動を通じて、率直な驚きや実感を伴った理解に導く新しい理科教育システムを構築した。この教育システムにより、子どもたちの率直な言語活動を引き出し、考えを深め合う効果につながっており、優れた取組になった。

北九州市立鞘ヶ谷小学校: 理科主任のリーダーシップの下に、各単元学習の場で子どもたちの理解を助ける教材や教具を積極的に開発・整備するとともに、教員の授業づくりに対する支援体制を構築した。また、子どもたちひとり一人のノート記録だけでなく、まとめの発表会を組み込むなど、意欲的な活動を展開し、波及効果の大きな理科教育を実践した。

【第3回理科教育賞(ポスターセッション) (楯と副賞20万円)1校】

横浜市立都岡中学校: 学びのグローバル化をめざした理科教育の実践を通じて、大半の生徒が理科好きになった実績が評価された。